

第19回宇宙開発委員会（臨時会議）議事次第

1. 日 時 昭和48年10月18日(木)
 午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題
 - (1) 昭和48年度8～9月期ロケット打上げ実験の評価
 について
 - (2) 欧州宇宙研究機構（ESRO）との行政官会議の開催
 について
4. 資 料
 - 委19-1 第18回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨
 - 委19-2 昭和48年度8～9月期ロケット打上げ実験の
 評価について案
 - 委19-3 第8回ロケット打上げ実験について
 - 委19-4 欧州宇宙研究機構（ESRO）との行政官会議
 の開催について

委19-1

第18回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨

1. 日 時 昭和48年8月31日（金）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和49年度における宇宙開発関係経費の見直しについて

4. 資 料

委18-1 第17回宇宙開発委員会（臨時会議）
議事要旨

委18-2 昭和49年度における宇宙開発関係経費の見直しについて（案）

5. 出席者

宇宙開発委員会

〃

〃

〃

山 県 昌 夫

網 島 毅

吉 識 雅 夫

八 藤 東 禎

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局宇宙開発参事官

山 野 正 登

文部省大学学術局審議官

笠 木 三 郎

（代理：深沢）

運輸省大臣官房参事官

佐 藤 久 衛

（代理：小林）

気象庁総務部長

間 孝

（〃 〃 高谷）

海上保安庁総務部長

高 野 晟

（〃 〃 樋口）

郵政省電波監理局審議官

高 田 静 雄

（〃 〃 西村）

郵政省電波監理局無線通信部長

平 野 正 雄

（〃 〃 岡井）

東京大学宇宙航空研究所

大 野 勝 男

宇宙開発事業団

岩 崎 出

〃

高 木 邦 寛

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

松 元 守 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第17回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨が、文章を一部追加のうえ、確認された。

(2) 昭和49年度における宇宙開発関係経費の見直しについて

事務局から資料委18-2「昭和49年度における宇宙開発関係経費の見直しについて（案）」に基づいて説明が行われ、

P1前文の「とりあえず」とあるのは、現在、宇宙開発計画の見直しを進めているので、その結論を得しだい必要に応じ

所要の修正を行なうことを意味していること、および、P2

II(I)1(5)および(6)の「エンジニアリングモデルの開発」には、

衛星搭載用の中継器、アンテナなどのミッション機器と基本

機器（バス）とを整合させた衛星のエンジニアリングモデルの

試験をも含んでいることが明確にされた。

この後、以下の質疑応答が行なわれ、表現を一部修正の上、

「昭和49年度における宇宙開発関係経費の見積り」が暫定的に決定された。

山県：P9に「ロケット打上げおよび種子島宇宙センター建設費」

とあるが、この2つは分離した方がよいのではないか。

事務局：従来はこの通りであるが異質なものと思われるので、今後は分離する方向で検討する。

山県：特別研究促進調整費5千万円というのは具体的に決まっているのか。

事務局：宇宙開発関係分として、現在予定している概算要求額である。

山県：CS、BSに関する昭和48年度の研究開発経費約20億円は、最終的に具体的な金額にする予定か。またこの20億円の内容は今回郵政省の提案したものとほぼ同じか。

事務局：指摘のとおりである。

八藤：P5、Ⅲの文章の末尾は、「必要な経費の見積りは、別表のとおりである。」と訂正すべきではないか。

事務局：そのように訂正する。

網島：開発段階における宇宙開発事業団のロケット打上げ経費は委員会の所掌であるのに、おなじ段階における東大のロケット打上げ経費が所掌外であるのはなぜか。

事務局：本来は双方とも委員会の所掌とすべきであるが、東大のロケット打上げ経費は、観測ロケットの打上げ経費等委員会の所掌外の経費が大半を占めており、また、金額的に分離し

がたい。

山県：この見積り（暫定決定）は、関係各省庁の概算要求の状況をもて正式に決定することとするが、これと正式決定が内容的に変わらなければ、正式決定の日付は委員長に一任することとしたい。

委19-2

昭和48年度8～9月期ロケット打上げ実験
の評価について案

昭和48年10月18日
宇宙開発委員会
決 定

昭和48年度8～9月期ロケット打上げ実験を評価するため、
次により調査審議を行なうものとする。

1. 宇宙開発事業団が行なつた第8回ロケット打上げ実験の結果
を評価するために必要な技術的事項について調査審議を行なう。
2. 1の調査審議は、技術部会において行ない、昭和48年12
月末までに終えることを目途とする。

委19-3

「第8回ロケット打上り実験について」

(昭和48年8.9月期)

JCR型ロケット9号機

- 1 打上りの目的
- 2 打上りの概要
- 3 打上りによる成果

宇宙開発事業団

1 打上ITの目的
JCR型ロケットは、人工衛星打上IT用ロケットに用ゐる誘導制御技術

を開発するための2段式固体ロケットである。

今回実施した9号機の打上ITは、誘導系電子機器と地上電子

装置とのリンク試験および地上からの電波指令による姿勢変更試験を行ない、これらの機能、性能の確認を行ないとともに、カスジェット制御

装置の制御特性を確認すると、特に緊急破壊系の機能確認を行うことを目的としている。

2 打上ITの概要

JCR型ロケット9号機は、種子島宇宙センターから昭和48年9月7日

午前10時40分、発射上下角76.3度、方位角101.6度で打上ITされ、(ロケット打上IT時の天候はくもり、風向風速は北東の風5m/sec、気温

25℃であった。)

ロケットは、正常に飛行し、第1段燃焼、1.2段分離、第2段燃焼を

正常に行なった。発射後、95秒に高度約125kmに達し、発射後362秒に水平距離で約325km離れた海面に着水した。

この間レーダ追尾およびテレメータ計測は順調に行なわれ、ロケット搭載の各機器も正常に作動し、所定のシーケンスに従って予定された各試験

を次のとおり行ない、すべて良好な結果を得た。

(1) 誘導系リンク試験

野木のカバント中距離レーダとロケット搭載のカバントレーダトランスポンダ

およびデコーダとの間で、発射後0~59秒および100秒以降着水までの間誘導信号の送受信テストを行なった。

(2) カスジェット作動および制御試験 ^{から}
 フォームによる作動試験、発射後 60秒着水までのロール軸制御

試験 (フリー・ジャイロから積分ジャイロへの姿勢基準変更試験を含む) を行った。

(3) 姿勢変更試験

発射後 80秒から 120秒の間において、ロケット搭載のフォームの

信号に野木中距離レーザからの指令を加えて、ロール軸周りの姿勢変更試験を行った。

(4) 緊急破壊試験

ロケット搭載のSバトコマンド受信機と緊急破壊装置の試験を発

射後約 290秒～300秒の間に実施し、野木のコマンド送信機からの信号による破壊装置の作動試験を行った。

3 打上げによる成果

JCR型ロケット9号機の打上げ実験において予定したすべてのテレメータ

およびレーザ観測データを取得し、これらの取得データからこれ次のように所期の目的を達成するところであった。

(1) 誘導系リンク試験、姿勢変更試験および緊急破壊試験を何れも予定どおり行ない、搭載機および地上装置ともに正常に作動し、その

機能、性能を確認するところであった。

(2) カスジェット制御装置の作動および制御試験は予定どおり順調に行ない、その制御特性を確認するところであった。

委19-4

欧州宇宙研究機構 (E S R O) との行政官
会議の開催について

昭和48年10月¹⁸日
科学技術庁

昭和47年12月12日に、日本とE S R Oとの間で取り交わされた書簡に基づき、宇宙の開発と利用について、双方に関心を有する一般的問題のほか特定分野の協力に関し協議するため、下記により双方の要員による会議を開催する。

記

1. 期日 昭和48年10月22日(月)、23日(火)
2. 場所 科学技術庁
3. 主な議題
 - (1) 宇宙開発の現状と将来について
 - (2) 人工衛星及びロケット関係技術の協力について

4. 出席者

日本側

千葉博 科学技術庁研究調整局長ほか
関係機関関係者

E S R O 側

J . A . Dinkespiller E S R O 計画局長ほか
3 名